

九十九里町地域公共交通計画

(素案)

令和6年(2024年)●月

九十九里町



(仮表紙)

目 次

I 計画の概要 ----- ●

1. 背景・目的 ----- ●
2. 計画の位置づけ ----- ●
3. 計画の区域 ----- ●
4. 計画期間 ----- ●

II 地域および公共交通の現状 ----- ●

1. 地域の現状 ----- ●
2. まちづくりの上位・関連計画等 ----- ●
3. 公共交通等の現状 ----- ●

III 町民等の外出状況・意識等 ----- ●

1. 町民へのアンケート ----- ●
2. その他のアンケート ----- ●

IV 今後に向けた課題 ----- ●

1. 九十九里町の現状・問題等の要点 ----- ●
2. 今後に向けた課題 ----- ●

V 九十九里町の公共交通がめざすべき姿と方向性 ----- ●

VI 今後に向けた取り組み（事業） ----- ●

1. 取り組み（事業）の体系 ----- ●
2. 各取り組み（事業）の内容 ----- ●
3. 将来の公共交通ネットワーク ----- ●

VII 今後の進め方 ----- ●



1. 背景・目的

本町の公共交通については、東金市、山武市、大網白里市へつながる路線バス、東京や千葉市等の都心へつながる高速バス、これらを補完するタクシーが運行しており、これまで、町や運行事業者による種々の取り組みを行ってきました。しかしながら、昨今、人口減少の本格化、町民のクルマ中心の外出スタイルや、運行事業者の乗務員不足の深刻化等にとともない、利用客の減少、運営の悪化、サービス縮小の悪循環を引き起こし、公共交通の確保・持続が厳しい状況となっています。

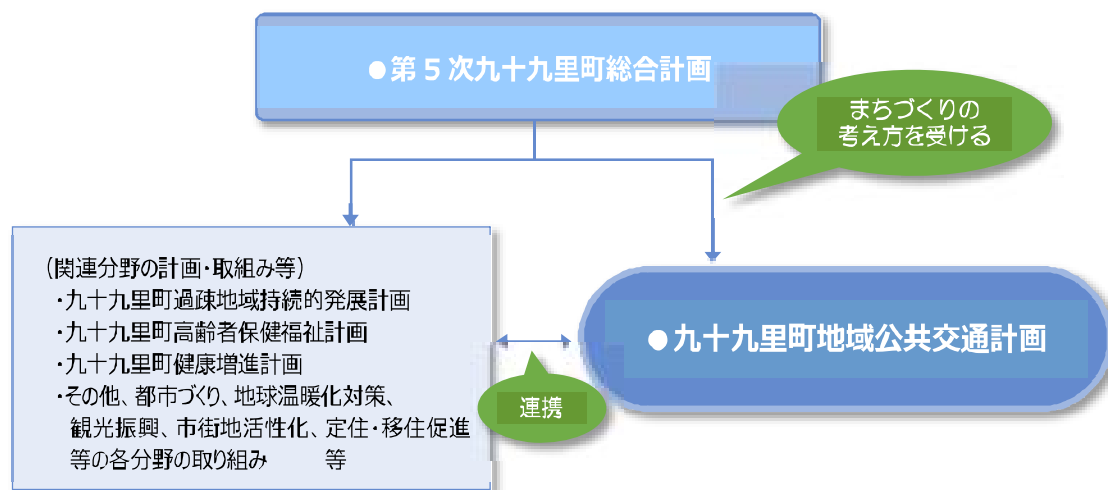
その一方、本町では、高齢化率がすでに40%を超え今後も進む見通しであり、クルマに依存していた多くの高齢者が運転免許を返納することも想定され、暮らしやまちづくりを支える公共交通の役割は、ますます重要になると考えられます。しかし、町内にはバスが運行していない地区が残っており、バスがあっても利用する町民が少なく満足度が低い等の現状にあります。

このような中、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」(平成19年(2007年)法律第41号)が平成26年(2014年)、令和2年(2020年)、さらに令和5年(2023年)に一部改正され、地域の関係者の連携・協働(共創)を通じ、利便性・持続可能性・生産性の高い地域公共交通へ再構築を進めることとされています。また本町のまちづくりの最上位計画である「九十九里町総合計画」においても、「公共交通の利用促進」(持続への支援の強化、利用環境の向上、町民への周知、意識の醸成)、「交通手段の充実」(高齢者等の交通サービス等の支援)を主な取り組みとして掲げています。

これらの背景から、この度、本町にとって望ましく持続可能な地域公共交通の実現に向け、町民・利用客、各公共交通の運行事業者、各分野の関係者・行政等が一体となって取り組みを進められるよう、今後の取り組みの方向性、考え方を示すマスタープランとして「九十九里町地域公共交通計画」を策定しました。

2. 計画の位置づけ

「九十九里町地域公共交通計画」は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づくとともに、本町のまちづくりの最上位計画である総合計画の考え方をふまえた計画であり、各分野の関連計画や取り組みとの連携を図りながら進める計画です。



3. 計画の区域

本計画の計画区域は、**九十九里町全域** とします。

4. 計画期間

本計画の計画期間は、**令和6年度(2024年度)～令和10年度(2028年度)**の5年間とします。



地域および公共交通の現状



1. 地域の概況

九十九里町の地勢、人口、施設立地等に関する地域の状況は、以下のとおりです。(以下は、基礎調査期間に入手可能な情報をもとに整理したものです。)

1-1. 位置・地勢

- 九十九里町は千葉県の東部、九十九里浜のほぼ中央に位置しており、北は山武市、西は東金市、南は大網白里市に接し、東は九十九里浜で太平洋に面しています。
- 東京都心から 60km 圏にあり、千葉市等の都市部や成田空港の至近に位置しています。
- 面積約 24km² のほとんどは平地で、人口は約 1 万 5 千人が暮らしています。



2. まちづくりの上位・関連計画等

(1) 総合計画（本町のまちづくりの最上位計画）

- 本町のまちづくりの最上位計画である「第5次九十九里町総合計画」では、“快適に暮らせる基盤づくり”の施策の一つとして「公共交通の充実」を掲げており、「公共交通の利用促進」（存続への強化、利用環境の向上、町民への周知、意識の醸成）、「交通手段の充実」（高齢者等の交通サービス等の支援）を主な取り組みとしています。

第3章 安全・安心に快適に暮らすまちづくり



（主な取組）

1 公共交通の利用促進

存続への強化、利用環境の向上。
町民への周知、意識の変化を促しながら、公共交通の利用促進を図る。

2 交通手段の充実

本町にあった**交通弱者対策**に取り組む。

(2) 関連計画等

- 本町の関連計画として、九十九里町過疎地域持続的発展計画では、総合計画を踏襲した考え方が示されています。その他、都市づくり、地球温暖化対策、健康増進、高齢者福祉、観光振興、まちの賑わい、定住・移住の促進、子育て支援等の分野においても総合計画にもとづく考え方による取り組みが行われており、公共交通が寄与できることがあると考えられます。

●九十九里町過疎地域持続的発展計画

- ・移住・定住・地域間交流の促進、人材の確保・育成
- ・産業の振興
- ・地域における情報化
- ・交通施設の整備、交通手段の確保の促進
- ・生活環境の整備
- ・子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進
- ・医療の確保
- ・集落の整備
- ・再生可能エネルギーの利用の推進

- ・公共交通の**利用環境の向上**と、住民への**周知**
地域公共交通に愛着を持ち、共に守るという**意識の醸成**
- ・**高齢者や障がい者、子育て世帯**が地域で生活できるよう、**交通手段の充実や支援**
- ・J R 東金線複線化促進協議会による**利便性向上、交通弱者対策**
- ・**九十九里町公共交通計画**の策定

●その他の関連計画

- ・九十九里町高齢者保健福祉計画
(高齢者が住み慣れた地域で健やかに、安心して暮らせるようにすることをめざす)
- ・九十九里町健康増進計画
(誰もが健康で心豊かに生活できるまちの実現をめざす)
- ・九十九里町地球温暖化対策実行計画
(温室効果ガス排出量の削減目標の実現に向けて様々な取り組みを行う模範となり、地球温暖化対策の推進を図る)

等



町民等の外出状況・意識等

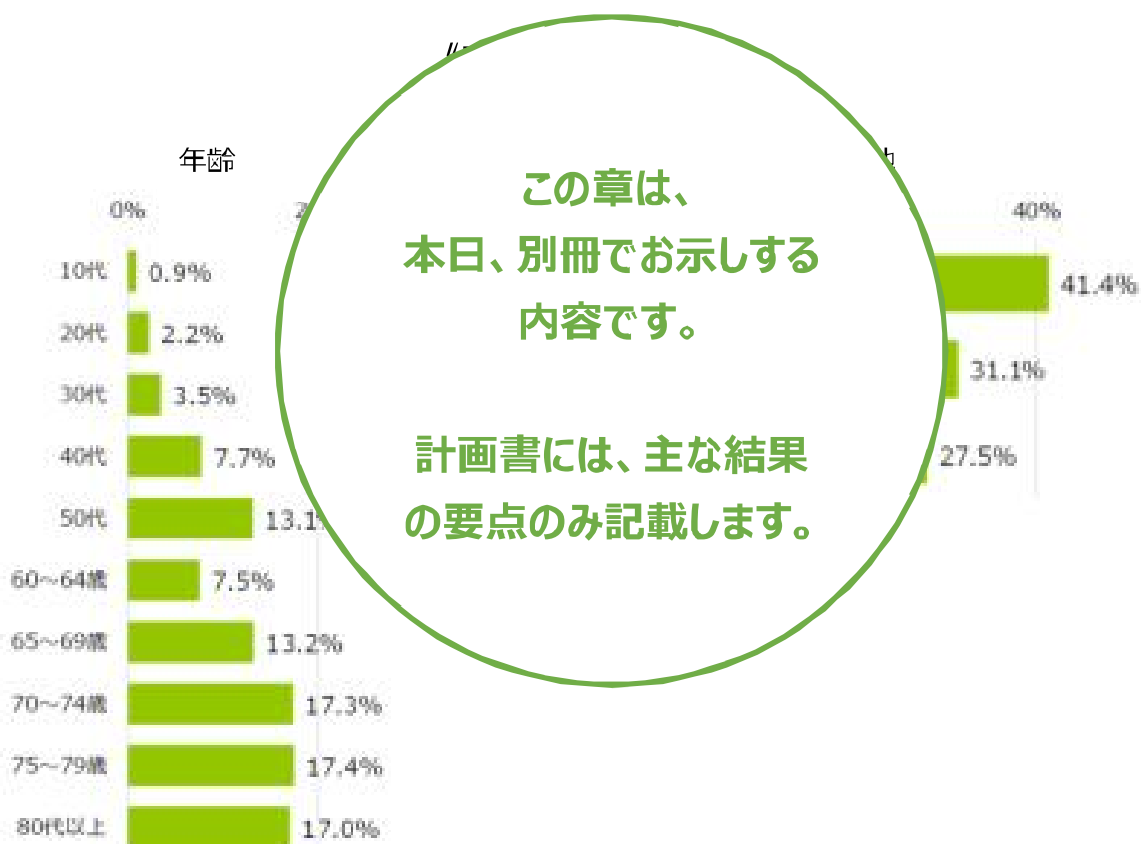


町民等の外出や利用交通手段、意識の状況などを把握するため、町民やバス・タクシー利用者、観光客へのアンケートを行いました。以下に結果の概要を示します。

1. 町民へのアンケート

1-1. 調査の実施概要

- 【調査対象】 九十九里町民（16歳以上）から、3000人を無作為抽出
- 【調査期間】 令和5年（2023年）10月～11月（予定より期間を延長）
- 【調査方法】 郵送配布、郵送回収
- 【回答者数】 1167人（回収率39%）





今後に向けた課題



1. 九十九里町の現状・問題等の要点

地域・公共交通に関する基礎情報、町民・利用客や運行事業者、関係者等からの情報・意見等により、本町の地域及び公共交通の現状・問題等の要点は以下のように整理されます。

地域の概況

(人口等の状況)

- 本町では、**人口減少、少子・高齢化**が進んでいます。
- 人口は、海岸沿いや町の中心に集まっていますが、**町域全体**に広がっており、**一人暮らしの高齢者等も、広く分布**しています。路線バスのような定路線運行の手段で全てをカバーするのは難しい状況です。
- 人口減少、少子・高齢化は**今後も進む見通し**であり、外出手段の確保は、ますます重要になると考えられます。(人口減少が進むなか、確保していくこととなります。)

(施設の立地状況)

- 本町の**スーパー、病院等**の主な施設は、おおむね町の中心付近に立地しています。**町の周辺部**からこれらの施設を利用するには、歩いて行くには遠く、**何らかの交通機関が必要**となります。
- また、町内の施設数は限られており、**必要に応じて隣接市等の施設へ出かける町民**も多い状況です。
- 一部、**バス停が近くにないスーパー、病院**もあります。

(町民の状況)

- 通勤・通学**では、町内のほか、東金市等へ出かける人が多くなっており、**クルマ（自家用車等）を利用する人が突出して多い**のが現状です。
- この地域の**店舗等**へは、**ほとんどの人がクルマ**で来店しています。
- 町民の**定住意向**は高い状況です。移転したい人の中では、**交通や買い物**が不便なことが理由の上位となっています。
- 町民の**自動車や運転免許の保有率**は高い状況です。
- クルマ中心の外出スタイル**となることで、**地球環境面、健康面、まちなかの賑わい**等の面での悪影響が危惧されます。

(観光等の状況)

- 夏季等には多くの人が**九十九里浜**を訪れています。近年、**観光客向けの店舗等**が増えています。
- 本町への**観光客**も、多くの人が**クルマ**で来訪しています。(宿泊客が減少)

公共交通の現状

(公共交通のネットワーク)

- 本町には駅がなく、複数の路線バスが町内を運行し、隣接市の駅との間をつないでいます。
- 高速バスが、東京、千葉方面との間をつないでいます。
- タクシーが、これらを補完する役割を担っています。

(路線バス・高速バスの状況)

- 路線バスは、本町の人口の8割近くをカバーしています。ただし、路線バス等で全域をカバーするには限界があり、公共交通不便地区が残っています。
- バスの利用客数は、決して多くなく、以前から減少傾向にあり、コロナ禍の影響でさらに落ち込みました。
- 路線バスは、主に高齢者の町民の利用が大半であり、一部に学生の通学利用もあります。高速バスは主に町外からの来訪者に利用されているように見受けられます。
- 大半の路線は、町外の乗降客が多くを占め、本町内のバス停の乗降客は少ない状況です。
- 海の駅九十九里まで高速バスを延伸する実証運行も行われていますが乗降客は少ない状況です。

(タクシーの状況)

- 町内にタクシー営業所が1社あり、車両台数は4台です。タクシーの利用客も、コロナ禍の影響で落ち込みました。
- タクシーは、町内の高齢者など、ほぼ決まった人が利用している状況と見受けられます。また、1人での乗車が多い状況です。
- 公共交通が存在しない地域の解消に向け、「タクシー利用助成」の実証実験に取り組んでいます。

(運行事業者の状況)

- 利用客の減少に加え、乗務員の不足、高齢化が全国的に深刻な問題となっており、さらに2024年の労働基準の改定もあり、バス、タクシーの事業者は、きわめて厳しい運営状況となっています。

本町のまちづくりにおける考え方（上位・関連計画等）

- まちづくりの最上位計画である「九十九里町総合計画」では、「公共交通の利用促進」（支援の強化、利用環境の向上、町民への周知、意識の醸成）、「交通手段の充実」（高齢者等の交通サービス等の支援）を主な取り組みとして掲げています。
- その他関連計画として、過疎地域持続的発展計画で、総合計画を踏襲した考え方が示されています。その他、地球温暖化対策、健康増進、高齢者福祉、子育て支援、観光等の分野においても総合計画にもとづく考え方による取り組みが行われており、公共交通が寄与できることがあると考えられます。

乗り場等の現地の状況

- 多くの町民や観光客が利用する店舗、病院、観光スポット等で、付近にバス停のない施設や、バス停と建物が離れている施設があります。
- 乗り場が近くにあっても、高齢者等が買い物等の荷物を持って歩くにはやや負担が大きい場合があります。
- 町内の主なバス乗り場は、猛暑、酷寒、荒天等の場合に長時間待つ場所としては十分ではない場所が多いように見受けられます。
- バス等の情報提供は各社個別に取り組まれています。多数の系統・路線があり、また複雑で、公共交通や当地域に不慣れな人、高齢者にとってはわかりにくい状況です。
- 高速バスを降りた後の回遊手段や、電車と乗り継ぐバスがわからず観光客が悩む状況も見かけられます。

町民や利用客の現状・意識等

- ほとんどの町民は、高齢者も含め、日々の暮らし（買い物、通院、趣味・遊び等）で、クルマ中心（運転、送迎・同乗）の外出スタイルとなっています。通院については、タクシーで出かける町民（高齢者等）も一部にいます。
- ふだん、バス、タクシーにほとんど乗らない町民が大半であり、乗ったことがないという人も少なくありません。
- 町民の満足度は高くない状況ですが、外出手段としてバス等を意識しておらず、便利か不便か、乗らないのでよくわからないという町民が多いのが現状です。
- 高齢者を含め、外出で困り事等のある町民は比較的少ない状況です。ただし、町外の駅等への外出について改善を望む声が比較的多くなっています。
- 乗り場まで歩くことや、車両の乗り降りが負担で、乗合の公共交通の利用が難しい高齢者等がおられますが、大半の方は、タクシーや家族・親族のクルマで外出ができています。（その他、歩いて出かけることや一人で外出すること自体が難しく、公共交通以外の福祉の個別送迎等が必要な方もいます）
- 少数ながらバスで通学している高校生がいますが、テスト期間等で下校時に便が合わず長時間待つこともあります。部活等のため家族のクルマの送迎で通学している高校生もいます。友人との遊びでバスに乗ることもあります。
- 公共交通は運転できない「弱者」（学生や高齢者）が利用するものであるという意識が町に浸透してしまっているように見受けられ、高校生等も、将来はバス等を使わない暮らしをイメージしている状況です。
- バスの運行ルートがよくわからない人が多く、特に高速バスのことを知らない人が少なくありません。
- 町民、来訪者、利用客等から、町外との行き来に使う際のバスの便を増やしてほしい、バスと鉄道との乗り継ぎをよくしてほしい、バスの運行状況をわかりやすくしてほしい、高齢者等の乗り降りをしやすくしてほしい、ICカードを使えるようにしてほしい、検索サイト等のダイヤ情報を更新してほしい、タクシーチケットを続けてほしいといった声が得られています。ただし、バス等が改善されても利用するかどうかかわからないという人が多くを占めています。
- 現状で困り事のある人は少数ですが、クルマが利用できなくなること、公共交通を使えなくなること等の将来の不安を抱える町民は多い状況です。

2. 今後に向けた課題・着眼点

地域・公共交通の現状や町民等の外出の実態・意識等をふまえ、本町の公共交通の今後に向けた課題・着眼点として以下が挙げられます。

●課題： 少子・高齢化が進むことも見据え、町内の外出手段を確保することが必要です。

本町では、居住地が町域に拡がり、施設の立地する場所が限られているため、外出するには徒歩以外の手段が必要ですが、少子・高齢化が進み、クルマを運転しない高齢者や一人暮らしの高齢者等が増える可能性があります。高齢者や障がいのある人、子育て世代がいつまでも地域で暮らせるよう、日々の外出手段を確保することが必要となります。

●課題： 運営が厳しく人口の減少も見込まれる中、将来にわたり、地域の公共交通を持続していくことが必要となります。

本町のバス、タクシー等の利用客は少なく、さらに、人口減少、乗務員の不足・高齢化によって、きわめて厳しい運営状況となっています。したがって、将来に向け、地域の実情に見合った形で、公共交通を確保し持続できるようにしていく必要があります。

●課題： 日々の外出の利便性を確保する方策を模索することが必要です。

公共交通を利用する町民等は少数であり、外出に関する困り事のない人が大半ですが、実際に公共交通を利用している人からは、鉄道との乗り継ぎや運行方法等について改善を望む声があります。利用客が少なく経費が収入を大きく上まわっている中で、運行方法やソフト面の調整・工夫等によって、町民の暮らしや学生の通学等の外出の利便性を確保する方策を模索することが必要です。

●課題： 福祉分野の取り組みとの連携も必要です。

現在は、クルマ（運転、送迎・同乗）で外出する町民が大半ですが、今後、少子・高齢化が進み、近くの乗り場まで歩くことや一人で出かけるのが難しい高齢者、家族のいない高齢者等が増える可能性があります。乗合の公共交通では支援しきれない人に対し、福祉分野の関係者による個別送迎等のサービスとの連携・役割分担も今後必要となります。

●課題： 全体として、「わかりやすさ」を充実することが必要です。

高齢者も含め公共交通をほとんど使わない人が多い状況であり、今後は初めて利用する人や不慣れな人の利用が増える可能性があります。また、本町には複数の事業者によるバス路線・系統があり、わかりにくいとの声があり、実際にバス等を利用する人も、決まった路線の決まった便を使っているように見受けられます。この状況に対し、公共交通全体のわかりやすさを充実する必要があります。

●課題： 主な乗り場の「待合環境」や「案内」を充実することが必要です。

他市町との行き来に利用するバス停や九十九里浜近傍のバス停が、本町の中で利用客が比較的多い乗り場となっています。その他、大型店や病院の最寄りのバス停も、今後の利用が増える可能性があります。待ち時間が長くても快適に過ごせ、また不慣れな人や来訪者等も安心して利用できるよう、待合環境や案内を充実することが必要です。

●課題： 少しずつでも、クルマしか使わない外出スタイルの見直しや、公共交通への意識の醸成に取り組むことが必要です。

現状では、バス等の公共交通を利用しない町民が大半であり、クルマを使えるかぎり公共交通が外出手段として意識されていないように見受けられます。この状況では、将来まで公共交通を確保・持続しても利用されないことが危惧されるため、少しずつでも、クルマしか使わない外出スタイルを見直し、使える時に使える方法で公共交通を利用する意識を醸成していくことが必要です。

●課題： 観光・まちの賑わいなど、多様な分野に貢献する方策を模索していくことが必要です。

現状では、町民だけでなく観光等の来訪者もクルマを利用する人が大半です。クルマによるドアツードアの移動と比べ、公共交通の利用と歩くことによる移動は、まちの賑わいなど、多様な面でよい影響があると考えられるため、関連する分野と考え方を共有し連携しながら公共交通の取り組みを行っていく必要があります。



九十九里町の公共交通がめざすべき姿・方向性



本町の現状、課題と将来に向けたまちづくりを踏まえ、以下を九十九里町の公共交通がめざすべき姿（基本理念）及び今後の取り組みの方向性（基本方針）とします。

■ 九十九里町の公共交通がめざすべき姿（基本理念）（仮）

みんなで考え、みんなで使って未来につづく
公共交通が、日々のくらしやまちづくりを支え、
にぎわいのある九十九里の実現
をめざします。



九十九里町の公共交通は、みんなで考え日々の暮らしに使いやすい外出手段にしていくとともに、高齢者や学生等のクルマを運転しない人だけでなく、町民や来訪者のみんなが、使える時には使うよう心がけることによって未来まで持続し、いきいきとした暮らしや、賑わいのあるまちづくりに貢献していくことをめざします。

■ 今後の取り組みの方向性（基本方針）

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
（バス・タクシー）

- 九十九里町のバス、タクシー等の公共交通を将来にわたって持続し、日々の暮らしやまちづくりを支えていくことをめざします。
- そのため、利用状況等に応じて定期的な見直しを行いながらバス、タクシー等を持続的に運行するとともに、日常的な利用客の確保、効率的・安定的な運用のための方策に取り組みます。

方向性2

**地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。**

- 高齢者等をはじめ、町内の各地域で暮らす町民が日々のお出かけで便利に使える公共交通サービスをめざします。
- そのため、地域に見合った形で外出手段を確保するとともに、可能な調整・工夫による方策を検討し、町内外への外出手段の利便性向上に取り組みます。

方向性3

**使ってみたくなる利用環境をつくります。
(わかりやすさ・やさしさ)**

- 公共交通をほとんど使ってこなかった人や、不慣れな高齢者、町外からの来訪客等にもわかりやすく、人にやさしい公共交通をめざします。
- そのため、町の公共交通全体のわかりやすさ、乗り場での案内の充実、待合環境や人にも地球にもやさしい利用環境の充実に取り組みます。

方向性4

**クルマだけでなく、少しずつでも公共交通を考えるように、
意識の変容を促します。**

- 少しずつでも、町民等が、クルマしか使わない行動スタイルを見直すよう促すとともに、地域の公共交通のことを、地域で考え、使える時に使って守る意識を育むことをめざします。
- そのため、町民の一人ひとりや地域が公共交通のことを「考える機会」を提供する取り組みを行います。

方向性5

まちの賑わいに貢献する方策を模索します。

- 本町には「九十九里浜」という魅力的な観光資源があります。多くの人が本町に来訪し周遊・回遊することで、まちのにぎわいに貢献する公共交通をめざします。
- そのため、観光・集客等と公共交通が連携した企画や、来訪者の利便性の向上に取り組みます。



今後に向けた取り組み



1. 取り組み（事業）の体系

本町の公共交通は、「めざすべき姿」の実現に向けた「5つの方向性」にしたがい取り組んでいきます。今後の取り組み（事業）の体系は以下の通りであり、計画期間において検討・実施を順次進めていきます。

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
(バス・タクシー)



取り組み
1-1

路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行



取り組み
1-2

日常的な利用客（固定客）の確保



取り組み
1-3

効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施

方向性 2

地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。



取り組み
2-1

町民の外出手段の効率的な確保



取り組み
2-2

町民の外出の利便性向上のための運用・運用方法の工夫



取り組み
2-3

学生等の利便性向上のための方策



取り組み
2-4

福祉と連携した外出等の支援

方向性 3

使ってみたくなる利用環境をつくります。
(わかりやすさ・やさしさ)



取り組み
3-1

町の公共交通全体のわかりやすさの充実



取り組み
3-2

乗り場での案内（現地でのわかりやすさ）の充実



取り組み
3-3

主要な乗り場での待合環境の充実



取り組み
3-4

人にも地球にもやさしい利用環境の充実

方向性 4

クルマだけでなく、少しずつでも公共交通を考えるように、意識の変容を促します。



取り組み
4-1

町民へのPR活動



取り組み
4-2

免許返納を考える人へのサポート



取り組み
4-3

町民が乗る機会・考える機会の提供（モビリティ・マネジメントの取り組み）



取り組み
4-4

地域主体で考える機会のサポート

方向性 5

まちの賑わいに貢献する方策を模索します。



取り組み
5-1

観光等に便利な運行方法の工夫・試行



取り組み
5-2

観光と公共交通が連携した企画等



取り組み
5-3

その他、来訪者の利便性の充実

2. 各取り組み（事業）の内容

本計画の5つの方向性に基づいた取り組み（事業）の内容を以下に示します。

各取り組みは、計画期間（5年間）に、具体的な実施方法について関係者、運行事業者、町民等との意見交換や調整を行いながら検討し、必要に応じて実証運行・試行等をふまえた上で本格的な導入等を行います。

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
(バス・タクシー)



取り組み
1-1

路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行

利用客が少なく、今後の人口減少も見込まれる中、本町の公共交通は、将来にわたり、町民の日々の暮らしやまちづくりを支えていきます。そのため、種々の利用促進を図りながら町内外への外出を担う路線バス・高速バスを持続的に運行します。

取り組みの内容

- 本町を運行する民間事業者の路線バス、高速バスについて、地域の実情に応じた運行方法の部分的な調整や見直しを定期的に行うとともに、小湊鐵道、九十九里鐵道のについては国・県の補助「地域公共交通確保維持事業」を活用し、ちばフラワーバスについては本町が山武市と連携した補助（現在の九十九里町路線バス海岸線運行事業、またはそれに代わる補助など）を行いながら、持続的に運行し、町内の各地区と隣接市町、駅などつなぐ外出手段としての役割を担っていきます。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	●	○ (国、県、隣接市)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 1-2

日常的な利用客（固定客）の確保

利用客が少なく厳しい運営状況にある中、本町のバス等の運行を今後も持続できるようにするため、運行事業者、関係者が連携し、日常的な利用客（固定客）を確保するための取り組みを行います。

取り組みの内容

- 路線バス、高速バスの定期券、回数券の販売を促進し、日常的な利用客を確保するため、バス事業者が作成するチラシ・ポスター等を、町とバス事業者が連携し、町関連施設、バス停のある店舗等に掲示するよう依頼します。
- 町とバス事業者が連携し、町内の中学校、高校等の行事（進路説明会、オープンキャンパスなど）に出向いて、生徒や保護者に対しバスの通学利用をPRします。
- 町内に住む学生の通学利用を促すため、バスの定期券、回数券の購入への町による助成などの制度の可能性について検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (施設・商業、学校の 関連部門と連携)	●	○ (町関連施設、店舗等関係者、 学校関係者)	

(●：取り組み主体　○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 1-3

効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施

将来にわたって本町の公共交通を効率的・安定的に運用できるようにするため、町と運行事業者が連携しながら、乗務員の確保などの運営上の喫緊の問題に対処する方策や、運行事業者の負担を軽減する方策を検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 乗務員不足・高齢化をはじめとする運営上の問題を共有するため、町が呼びかけを行い、複数のバス・タクシーの運行事業者による意見交換の場を定期的に設けます。
- 乗務員の確保については、各事業者が継続的に取り組みを行うとともに、町の広報、ホームページ等の媒体、U I Jターンのキャンペーンなどを活用した求人活動など、町が可能

な支援の仕組みを検討します。

- 運行の効率化（バス乗務員の負担軽減）を目的として、各運行事業者が、ダイヤなど運行方法を定期的に見直します。

また、バス乗務員の運転時間を効率化（連続運転を短縮）できるような場所での「共同の休憩場所」の確保について、町が可能性を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (UIJ ターン、施設等の 関連部門と連携)	●	○ (施設関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。



町民の外出手段の効率的な確保

公共交通を使う町民の町内や隣接市の店舗、病院などへの外出の手段を効率的に確保するため、タクシーなどの運行・運用方法や、新たな外出サービスや仕組みなどを検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 現在、本町で行っている公共交通の実証実験（「九十九里町公共交通実証実験助成事業」によるタクシー利用助成）を継続し、有効性を検証した上で、事業の継続や、他の地区への適用の可能性について検討します。
- タクシーを活用して町民の外出手段を効率的に確保するため、町が行う「タクシー利用助成」などにおいて、「相乗り（複数名での乗車）」の利用を促すような仕組み（割引など）を検討します。
- バスが運行していない町内の地区を対象として、行先、運行ルート、時間帯を定めた「デマンド型の乗合タクシー」（個別送迎ではない乗合タクシー）などについて検討し、状況に応じて実証運行を行います。
- 地区の住民が中心となって運営する、地域の実情に応じたお出かけサービス（タクシーの相乗り、住民ボランティアによる送迎など）について検討を行います。主体的に取り組もうとする地区が、サービスの試行や実証運行などを行う際に、町がサポートする仕組みを検討します。（*地区住民が中心となって「考える」取り組みへのサポートについては後述）

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○ (実証運行等の協力)		●

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



町民が、町内外へ、公共交通を使って便利に出かけられるようにするため、町内の公共交通の運行方法の工夫を行うとともに、店舗などの施設と連携した取り組みを行います。また、バス、タクシー、鉄道を乗り継いで、町外との間を便利に行き来できるようにするため、複数の公共交通が連携した運行・運用方法を検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 本町のバスと鉄道との乗り継いだ外出の利便性を充実するため、ダイヤ改正などの情報を随時提供していただくよう、町から鉄道事業者へ打診し、その情報をもとにバス事業者が、可能な限り乗り継ぎが便利になるよう定期的にダイヤを調整します。
- タクシーとバスを利用した外出を便利にするため、例えば、町内でのタクシーとバスの乗り継ぎ利用、行きはバスで帰りはタクシーといった利用を促す仕組み（割引・特典など）について、町が呼びかけを行いバス、タクシー事業者と意見交換しながら、可能性を検討します。
- 公共交通を使った外出を促すため、町が店舗関係者や運行事業者への打診を行い意見交換しながら、例えば、バス、タクシーを使って買い物をした人への割引・特典などの仕組みの可能性について検討し、有望なアイデアがある場合には試行などを行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (商業関連部門と連携)	●	○ (店舗・関連団体)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



町内の高校生の通学や、休日・夏休みなどの外出の利便性を向上し、活発な外出を促すため、公共交通の運行方法やその他の方策について、学校関係者とともに検討・調整を行います。

取り組みの内容

- バス通学をする生徒がいる九十九里高校などで、テスト期間の短縮時間割などの際の下校や休日・夏休みの部活動などでバスの便が合わない場合に、例えば、バスの特別ダイヤの

調整や、相乗りや貸切りのタクシーなどにより、ちょうどよい時間帯を補完する方策の可能性について、町と学校関係者、運行事業者が調整しながら検討します。

- 高校生などのニーズを定期的に把握しながら、週末・夏休みなどに町外から本町へ遊びに来る際にちょうどよい時間帯の外出手段（例えば、行きはバス、帰りは相乗りのタクシーなど）の可能性について検討します。
- 高校生からの要望が多い、バスの「キャッシュレス化」（ICカード、モバイル回数券など）について、バス事業者が継続的に検討するとともに、町も支援の方策を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (学校関連部門と連携)	● (試行等への協力)	○ (学校)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

2-4 取り組み 福祉と連携した外出等の支援

高齢化が進むことで、乗合の公共交通の利用や、外出自体が難しい町民が増える可能性があります。本町全体としては、公共交通と福祉などの関係者が連携や役割分担を行いながら、なるべく公共交通を利用して出かけていただけるようにする方策とあわせて、乗合の公共交通以外の送迎などで出かけていただく方策に取り組み、元気なお出かけを応援していきます。

取り組みの内容

- 乗合の公共交通の利用が難しい方に対し、町の福祉部門の取り組みによる支援の方策（例えば、ワゴン車などでの買い物ツアー、福祉のボランティアによる個別送迎のほか、買い物代行サービスなど）を検討します。
- 障害のある方への支援として、町の福祉部門による「福祉タクシー助成事業」（タクシー利用に対する助成）を継続します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (福祉関連部門)	○ (仕組みへの協力)	● (福祉関連団体等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



本町の公共交通について、バスの運行状況をよく知らない人が少なくないことや、利用方法をわかりやすくすることを望む声があることから、出発前に得られる町の公共交通全体の情報を充実し、利用に対する抵抗感の軽減に取り組みます。

取り組みの内容

- 本町を運行する複数の路線バス、高速バス、JR 東金線、外房線、総武本線、タクシーの情報を一つにまとめ、どこに行けば、どこ行きのバスに乗れるかを高齢者などにもわかりやすく簡潔に示す町全体の「バスマップ(チラシなど)」を、町が各バス事業者の情報を得ながら作成します。
- バスを利用する習慣がなく路線図や時刻表を調べることに抵抗感のある高齢者などに対し、町が福祉関係者と連携し、各地区に出向いてバスなどの使い方に関する「出張説明会」などを行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (福祉関連部門と連携)	● (情報の提供など)	○ (自治会、福祉関連団体等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



本町への来訪者や、公共交通の利用に不慣れな町民などが、外出先の現地で迷うことなく利用できるようにするため、種々の工夫を行い乗り場での案内を充実します。

取り組みの内容

- 町が運行事業者と連携し、主なバス停や、観光スポットの施設内の掲示などの方法で、何に乗ればどこに行けるかといった簡易で総合的な案内を行います。また、町の観光案内所

や観光施設と連携し、スタッフによるバス、タクシー等の案内のフォローができるようにします。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	○ (情報の提供、相互の案内)	○ (観光関連団体、 施設関係者等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



主要な乗り場での待合環境の充実

町内の主な施設（店舗、病院、観光施設など）のバス停において、待ち時間が長い場合でも利用客が快適に過ごせるようにするため、施設内の待合環境や、バス案内情報の充実に取り組みます。

取り組みの内容

- 利用客が、なるべく施設内で待てるようにするため、主な店舗、病院、観光施設などの建物内の待合スペースにバスの時刻表等の案内情報を掲示すること、また、敷地内にタクシーが乗り入れ待機できるようにすることについて、町が施設関係者への打診を行います。
- バスが到着する直前まで建物の中で待てるようにするため、主な店舗、病院、観光施設などの待合スペースに、簡易なタブレット端末やテレビ画面などを設置して、バスの現在位置がわかる「リアルタイム位置情報」を表示することについて、町とバス事業者が可能性を検討します。
- 本町のバスの拠点となるような乗り場付近（片貝付近、サンライズ九十九里、海の駅九十九里など）に、既存施設や空きスペースなどを活用して、バス待合スペースと案内情報スペースをかねた、簡易な施設を設けること（小さな拠点づくり）について、町と関係者が可能性を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (施設・観光の 関連部門と連携)	● (運行情報の提供)	○ (施設関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



高齢化が進むことをふまえ、本町の公共交通全体として、人にも地球にもやさしい利用環境を創出するため、車両、乗り場のユニバーサルデザインや、低エネルギー化に取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 車両の乗り降りが利用の抵抗とならないよう、車両の更新時のノンステップバス、低エネルギー車両の導入を検討するとともに、乗り場などのユニバーサルデザインについて継続的に取り組んでいきます。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (地球環境・施設の 関連部門と連携)	●		

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 4

クルマだけでなく、少しずつでも公共交通を考えるように、意識の変容を促します。



取り組み 4-1

町民へのPR活動

本町では、公共交通を使える場合にも利用しない町民が大半であるのが現状です。そのため、クルマしか使わない外出スタイルの見直しと、使える時に少しずつでも公共交通を使うことについて、PR活動を積極的に行い町民に呼びかけていきます。

取り組みの内容

- 町の広報媒体、イベントでの広報活動などにより、公共交通の大切さと厳しい運営の現状を町民に知っていただき、使える時に少しずつでも利用するよう継続的に呼びかけます。
- バスの車内、町の主要な施設などに児童の絵を展示する「お絵かき展」など、家族等と一緒に公共交通に親しめる催し等を企画します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (イベント、児童福祉の 関連部門と連携)	○ (PR等の連携、企画への協力)	○ (幼稚園等)	● (取り組みの理解、 積極的な参加、)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 4-2

免許返納を考える人へのサポート

高齢者がクルマ中心の外出スタイルを見直し、安心して運転免許の返納を検討できるよう、公共交通を利用する機会の提供による動機付けを行っていきます。

取り組みの内容

- 運転免許証を返納した町民へのサポートとして、本町のすべてのバス、タクシー事業者が取り組む「安全運転免許自主返納支援措置」による乗車運賃の割引を継続するとともに、警察と町が協力し、積極的に町民にPRします。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○ (PR活動)	●	○ (警察)	● (積極的な利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
4-3

町民が乗る機会・考える機会の提供 (モビリティ・マネジメントの取り組み)

本町では、クルマ中心の外出スタイルとなっている町民が大半であり、公共交通をほとんど利用しない人が多いのが現状です。将来まで公共交通を持続するため、モビリティ・マネジメントの取り組みとして、「乗る機会」、「考える機会」を提供することにより、公共交通の大切さと厳しい運営状況の理解を促し、クルマしか使わない外出スタイルの見直しと、使える時に少しずつでも公共交通を利用する意識の醸成を図っていきます。

*「モビリティ・マネジメント」：コミュニケーション施策を中心として、“知る機会”、“考える機会”、“体験する機会”を継続的に提供することにより、クルマ利用だけを考える状態から、公共交通や徒歩・自転車などクルマ以外の利用を考える状態へと、少しずつ自発的に、意識や行動が変わり、定着するように促す取り組み。

取り組みの内容

- クルマを運転しない年齢のうちに公共交通への意識を育むため、町が学校や地域のクラブなどに呼びかけ、バス事業者と連携し、実際のバス車両を用いた「小学生等の乗り方教室」を行います。
- 町とバス事業者が協力し、学校、地域などに対し、行事、クラブ活動、地域の催しなどで出かける際に路線バス、高速バスを利用していただくようPRを行います。
- これまでバスを利用してこなかった人に、乗車する機会を提供するため、町とバス事業者が連携し、高齢者などの乗車体験会を企画します。
- 実施日または期間を限定し、バス等に無料で乗車できる「バス無料デー」の企画または「お試し乗車券」の進呈などについて検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (学校・地域・福祉 関連部門と連携)	● (企画への参加、協力)	● (学校・クラブ、 自治会・町内会等)	● (積極的な参加、利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



高齢化が進む地区等で、これからの外出手段について地区の住民が中心となり主体的に「考える機会」をサポートすることによって、地区住民全体としての公共交通に対する意識の醸成を図っていきます。

取り組みの内容

- 住民が主体的に取り組もうとする地区を対象として、住民の要望を聞く場としてではなく、地域のこれからの外出手段や公共交通について住民が主体的に考える機会とすることを目的として、町と自治会などが連携し、各地区での「意見交換会」を定期的を開催します。また、住民が中心となったお出かけサービス（例えば、タクシーの相乗りや助け合いによる送迎サービスなど）の取り組みに対し、検討段階の会合にアドバイザー（コンサルタントなど）を派遣するなど、「考える機会」やその後の試験運行を町がサポートする仕組みについて検討します。状況によっては、モデル的な地区で先行的に試行します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (サポートの仕組みの検討)		● (自治会・町内会等)	● (積極的な参加、利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 5 まちの賑わいに貢献する方策を模索します。



取り組み
5-1

観光等に便利な運行方法の工夫・試行

九十九里浜をはじめ、本町には複数の観光やレジャーのスポットがあります。なるべく多くの人に本町へ来訪していただけるようにするための路線バスの運行方法を検討し、実証運行などを行いながら取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 高速バスの「海の駅九十九里への乗り入れ」について検討し、定期的の実証運行を行うとともに、バス事業者と町、観光関係者が協力してPRを強化します。
- 観光客向けの店舗などの立地が進んでいる「九十九里ビーチライン」(産業道路)の路線バスの運行について検討し、夏季などの実証運行を行うとともに、バス事業者と町、観光関係者が協力したPRを行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○ (PRの協力)	●	○ (観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
5-2

観光と公共交通が連携した企画等

九十九里浜など本町の魅力的な観光、レジャーのスポットへ、なるべく多くの人々が公共交通を使って来訪し、地域の周遊や町内の回遊をしていただけるよう促すため、公共交通と観光が連携した企画などに取り組みます。

取り組みの内容

- 本町の観光資源を活かした魅力ある企画きっぷやツアー、イベントなどについて、町の呼びかけにより、公共交通と観光などの関係者が定期的に意見交換を行い、可能性を検討します。有望なアイデアがある場合には試行などを行います。
- 町の呼びかけにより、バス、タクシー事業者や観光関係者と意見交換しながら、例えば、

周遊バス、観光タクシーや、小型モビリティ（EVカーシェア、Eバイク、電動キックボードのレンタルなど）など、周遊や回遊に便利な移動手段の導入の可能性について検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	● (意見交換への参加)	● (観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
5-3

その他、来訪者の利便性の充実

本町へ、公共交通を利用して来訪した人の利便性を向上するとともに、リピーターを確保するため、バス、タクシーなどの利用環境の充実、民間のサービスや新たな技術の活用に取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 民間による検索サイトやアプリなどで経路を検索できるようにするため、バスの運行情報の「オープンデータ化」について検討し順次取り組むとともに、定期的に更新します。
- 高校生だけでなく観光客からも要望の多いバス、タクシーの「キャッシュレス化」(ICカード、モバイル回数券など)について、バス、タクシーの事業者が継続的に検討するとともに、町も支援の方策を検討します。
- その他、民間のアイデアによる多様なスマホアプリや、MaaS、自動運転など将来的な導入の可能性がある技術の動向について、町や運行事業者が継続的に情報収集を行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	●		







(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

3. 将来の公共交通ネットワーク

本町の公共交通は、現状のネットワークの構成を活かし、地域の実情に応じた運行方法の見直しや、新たな公共交通サービスの可能性、公共交通以外の送迎サービスとの連携などについて検討しながら、将来まで持続し、町民の日々の暮らしやまちづくりを支えていくことをめざします。また、運行を持続するだけでなく、わかりやすさや待合い環境の充実、町民の意識の醸成を通じた利用促進を図るとともに、観光などとの連携をめざした取り組みを行います。

《将来の公共交通ネットワークのイメージ》



九十九里鐵道（路線バス） 《補助対象路線系統》	
九十九里鐵道（九十九里ライナー）	
ちばフラワーバス（路線バス）	
小湊鐵道（大網サンライズ九十九里線） 《補助対象路線系統》	
九十九里町役場	
主な観光施設	

《国の地域公共交通確保維持事業（幹線補助）について》

小湊鐵道の大網サンライズ九十九里線は、鉄道駅（JR 大網駅）に接続するとともに、本町と大網白里市をつなぎ、日常生活における移動を確保するとともに、サンライズ九十九里への観光の移動を確保しています。

九十九里鐵道の片貝循環豊海線は、鉄道駅（JR 東金駅）に接続するとともに、本町と東金市をつなぎ、日常生活における移動を確保するとともに、九十九里浜への観光の移動を確保しています。

いずれの路線も、地域間の幹線として、本町の公共交通ネットワークを構成する上で特に重要な役割を担っています。一方で、事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業（幹線補助）により運行を確保・維持する必要があります。

系統	起点	経由地	終点	運行形態	取組みの主体	補助事業の活用
小湊鐵道 大網サンライズ九十九里線	大網駅	白里海岸	サンライズ九十九里	路線定期運行	小湊鐵道 (運行主体) 九十九里町 大網白里市	幹線補助
九十九里鐵道 片貝循環 豊海線	東金駅西口	家徳・幸田 家徳・サンピア サンピア・幸田	東金駅西口		九十九里鐵道 (運行主体) 九十九里町 東金市	

《本町の九十九里町路線バス海岸線運行事業について》

ちばフラワーバスの海岸線は、鉄道駅（JR 成東駅）に接続するとともに、本町と山武市をつなぎ、本町民の日常生活における移動を確保するとともに、九十九里浜への観光の移動を確保し、地域間の幹線として、本町の公共交通ネットワークを構成する上で特に重要な役割を担っています。一方で、事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しいため、本町が、乗り合いバス運行に係る経費の一部について、事業者に対する補助を行います。

系統	対象区間	運行形態	団体名	対象キロ程	運行主体
ちばフラワーバス 海岸線	成東駅～蓮沼～成東海岸、 向渡入口～成東駅	路線定期運行	山武市	23.7km (按分率 75%)	ちばフラワーバス
	成東海岸～作田～向渡入口		九十九里町	7.9km (按分率 25%)	

VII

今後の進め方



本町の公共交通が「めざすべき姿」の実現に向け、計画期間において、本計画に基づく取り組みを進めていきます。また、めざすべき姿が実現できているかどうかを確認するための指標と目標値を設け、評価・検証を行います。

《達成状況の検証》

計画を進めるに当たっては、PDCA（Plan・Do・Check・Action）のサイクルによる継続的な取り組みを行い、必要に応じて適宜改善を図っていきます。取り組みの実施状況、目標の達成状況については、各年度及び最終年度に確認・検証し九十九里町地域公共交通会議で報告します。また今後、本町の公共交通を取りまく地域や社会の情勢、交通手段に関する技術革新の動向、人々の意識・行動や嗜好・流行の変化等によっては、計画内容の更新、見直し等を行うことも必要となります。



- Plan : 計画・調整等
- Do : 取り組みの実行
- Check : 進捗状況の確認、評価・検証
- Action : 更新・見直し等

(取り組みの進め方)

	R 6年度				R 7年度				R 8年度				R 9年度				R 10年度			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
Plan	次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整			
Do	取り組みの実行																			
Check					前年度の確認				前年度の確認				前年度の確認				前年度の確認 全体の評価・検証			
Action					更新・見直し等				更新・見直し等				更新・見直し等				更新・見直し等			

* 前年度の取り組み状況の確認、全体の評価・検証の結果は、九十九里町地域公共交通会議で報告。

《評価指標と目標値》

本計画が「めざすべき姿」の実現に向けた「5つの方向性」に対し、達成状況を測るための“ものさし（目安）”として評価指標と目標値を以下のように設定します。なお現況値については、令和5年度の基礎調査期間に入手可能な情報をもとに設定しました。新型コロナウイルス感染拡大後の外出行動の状況など、計画期間中に大きな変化があった場合には目標値の見直しを行います。

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
(バス・タクシー)

●達成イメージ： 本町のバスが持続的に運行している。

公共交通が持続的に運行し、人口減少が進展する状況においても現在と同等以上の利用客数を確保していることを指標とします。

・指標① バスの運行に対する町の補助額

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
2,568 千円／年	2,568 千円／年（現状確保）

・バスの運行に対する町による補助額の合計。

・指標② 九十九里町を運行するバスの利用客数計

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
217 千人／年	217 千人／年（現状確保）

・本町を運行する九十九里鉄道（片貝・豊海循環線、片貝線、豊海線、九十九里ライナー）、ちばフラワーバス（海岸線）、小湊鐵道（高速バス IC カード）の利用客数の合計。

●達成イメージ： 路線バスの日常的な利用客を確保できている。

人口減少、少子・高齢化が進展する状況においても、路線バスの日常的な利用客（固定客）が現在と同等に確保されていることを指標とします。

・指標③ 九十九里鐵道のバス定期券購入者数

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
34 人（4月実績）	34 人（4月実績）（現状確保）

・九十九里鐵道のバス定期券購入者数（4月の実績）

・指標④ ちばフラワーバスの定期利用客数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
3780 人／年	3780 人／年（現状確保）

・ちばフラワーバスの定期利用客延べ人数（10～9月）

●達成イメージ： 路線バスが、効率的に運行・運営できている。

定期的な見直し等によって運行・運営が効率的になり、運行1回当たりの利用客数が増加していることを指標とします。（このことに伴い、収支率も、1人当たりの費用も良くなります。）

・指標⑤ 九十九里鐵道の路線バスの運行1回当たりの乗車人員

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
5.6人/便	6.0人/便（現状以上）

・九十九里鐵道のバス（片貝・豊海循環線、片貝線、豊海線）の年間運行回数の合計に対する延べ利用客数の実績。

方向性2

地域に見合った外出手段を確保し、日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。

●達成イメージ： 公共交通を利用した外出が増えている。

町民等が日々の外出で公共交通を便利に使えるようになり、多くの人がバスを利用して外出していることを指標とします。

・指標⑥ 九十九里町を運行するバスの利用客数計（再掲）

●達成イメージ： 公共交通がうまく使われている。

町民等が日々の外出で、タクシーをうまく利用していることを指標とします。

・指標⑦ 町内のタクシーの実車1回当たりの利用客数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
1.4人/回	1.5人/回（現状以上）

・町内のタクシーの実車1回当たりの利用客数。

●達成イメージ：地域に見合った外出手段の確保に取り組んでいる。

本町の実情に見合った外出手段（乗合の公共交通の利用が難しい高齢者等への外出支援サービス）に継続的に取り組んでいることを指標とします。

・指標⑧ 町が行う外出支援サービスの件数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
—	1件/年

- ・町が行う乗合の公共交通の利用が難しい高齢者等への外出支援サービスの件数。
- ・「九十九里町総合計画」の指標と整合

方向性3

使ってみたくなる利用環境をつくれます。
（わかりやすさ・やさしさ）

●達成イメージ：公共交通のことを知っている町民、使って満足している町民が増えている。

公共交通全体のわかりやすさ・やさしさが充実し、町内の公共交通に対する町民の認知度、満足度が向上していることを指標とします。

・指標⑨ 町内のバスの認知度（知っている町民の割合）

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
24%	50%以上

- ・町民アンケート結果（R5）による（町全体の路線・行き先等を）“おおむね知っている”との回答の割合

・指標⑩ 町内の公共交通に対する全体的な満足度

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
7%	20%以上

- ・町民アンケート結果（R5）による「満足」「やや満足」との回答の計（満足、やや満足以外の回答には、“わからない”との回答も含まれている）

方向性5 まちの賑わいに貢献する方策を模索します。

●達成イメージ：公共交通への意識の醸成を主旨とする取り組みが着実に行われている。

町民に対しクルマしか使わない外出スタイルの見直し、公共交通への意識の醸成を促す取り組みが着実に行われていることを指標とします。

・指標⑪ 町民の意識の醸成を主旨とする広報、会合等の回数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度まで）
—	2回/年

- ・意識の醸成を主旨とする町民への広報、会合等の町による実施回数
- ・「九十九里町総合計画」の指標と整合

●達成イメージ：使える時に公共交通を使う外出スタイルが徐々に広がっている。

意識の醸成を促す取り組みにより、公共交通を使わない町民が減少していることを指標とします。

・指標⑫ 町内のバス・タクシーに乗らない町民の割合

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
67%	50%以下

- ・町民アンケート結果（R5）による（町内のいずれのバス、タクシーにも）「乗ったことがない」または「ほとんど乗らない」との回答の割合

方向性 5 九十九里のまちの賑わいに貢献する方策を模索します。

●達成イメージ： まちの賑わいに貢献する公共交通の取り組みが着実に行われている。

観光と公共交通が連携した取り組みが着実に行われていることを指標とします。

・指標⑬ 公共交通が連携したバスの運行、集客や周遊・回遊の企画への取り組みの件数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
—	1件/年

・公共交通が連携したバスの運行、イベント・キャンペーン・企画等の件数

《進捗管理》

計画全体の取り組みの進捗確認や結果の評価・検証を行う主体が必要であり、「九十九里町地域公共交通会議」において行います。

《今後の取り組みのスケジュール》

取り組みごとの具体的な実施体制等について調整・決定し、令和6年度(2024年度)以降の5年間で、具体的な実施内容や方法の検討、準備等を行いながら取り組みを進めます。必要に応じて試行、実証運行をふまえながら取り組み、状況によっては計画の見直しも適宜行っていきます。取り組みの進捗状況や、指標とした数値の経過を把握可能なものについて毎年確認を行い、最終的な目標の達成状況を令和10年度(2028年度)に検証します。

取り組み		計画期間				
		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
1. 町の公共交通（バス・タクシー）を将来にわたり持続します。						
1-1	路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行	継続、順次見直し →				
1-2	日常的な利用客（固定客）の確保	継続、検討、PR活動 →				
1-3	効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施	継続、検討 → 試行等 →				
2. 地域に見あった外出手段を確保し、日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。						
2-1	町民の外出手段の効率的な確保	継続、検討 → 試行・実証運行等 →				
2-2	町民の外出の利便性向上のための運用・運用方法の工夫	継続、検討、試行等 →				
2-3	学生等の利便性向上のための方策	継続、検討 →				
2-4	福祉と連携した外出等の支援	継続、検討 →				
3. 使ってみたくなる利用環境をつくります。（わかりやすさ・やさしさ）						
3-1	町の公共交通全体のわかりやすさの充実	検討、順次実施 →				
3-2	乗り場での案内（現地でのわかりやすさ）の充実	検討、順次実施 →				
3-3	主要な乗り場での待合環境の充実	検討、試行等 →				
3-4	人にも地球にもやさしい利用環境の充実	検討、順次実施 →				
4. クルマだけでなく、少しずつでも公共交通を考えるように、意識の変容を促します。						
4-1	町民への広報PR	検討、継続的に実施 →				
4-2	免許返納を考える人へのサポート	検討、継続的に実施 →				
4-3	町民が乗る機会・考える機会の提供 （モビリティ・マネジメントの取り組み）	検討、継続的に実施 →				
4-4	地域主体で考える機会のサポート	検討、継続的に実施 →				
5. まちの賑わいに貢献する方策を模索します。						
5-1	観光等に便利な運行方法の工夫・試行	検討、実証運行等 →				
5-2	観光と公共交通が連携した企画等	継続、検討、試行等 →				
5-3	その他、来訪者の利便性の充実	情報収集、検討、順次実施 →				

（取り組みの検証）

- 実施状況、把握可能な指標を、毎年チェック
- 最終年度に、すべての取り組み、全目標値の達成状況を検証

